

地域と学校が一体となって子どもたちを育む

特集

コミュニティ・スクール

「コミュニティ・スクール」という言葉を聞いたことがありますか？今月は、「コミュニティ・スクール」の概要と、南小で活躍する「サポーター（ボランティア）」の活動を紹介します。



自己の生き方を探る「ドリームナビ」。講師（府中南幼稚園 後河内良子園長）の話を真剣なまなざしで聴く子どもたち

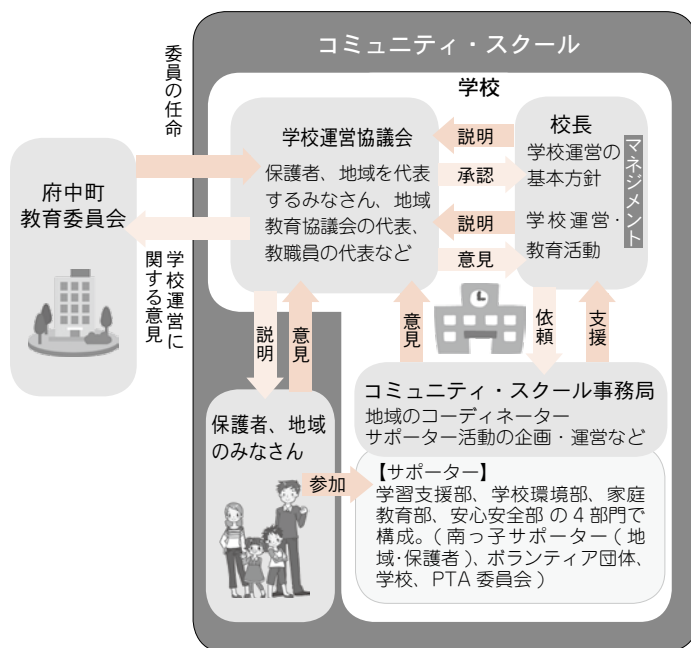
「コミュニティ・スクールは、「学校運営協議会」を導入した学校のことで、地域のみなさんの声を学校経営や運営に反映させながら、地域と学校が同じ方向を向き、力を合わせて地域の子どもを育むための仕組みです。文部科学省によると、全国では、3600校、広島県では13校がコミュニティ・スクールを導入しています。（平成29年4月現在）

地域のみなさんの声を学校経営・運営に反映

町内では、平成26年から南小学校がコミュニティ・スクールを導入し、年々、活動の幅を広げています。

「学校運営協議会」では、地域の代表・保護者の代表が学校運営について意見を出し合います。

その他に、南小では、地域のコーディネーターとして、「南小コミュニティ・スクール事務局」を置き、地域のサポーター活動の企画調整などを行っています。



南小学校コミュニティ・スクールのイメージ



南小コミュニティ・スクール 7月の授業から

①防災キャンプ(5年生) 約8時間にわたり、町内会、女性会、企業、ボランティアなど10以上の団体から約50人が協力。/②平和学習(4・5年生) ピースボランティアの村上さんが原爆をテーマに講演。/③被爆体験記の朗読(6年生) 講師 広島原爆死没者追悼平和記念館 被爆体験朗読ボランティアのみなさん。/④防犯教室 講師 少年補導協助員のみなさん【万引きについて】(低学年)【携帯、スマホ、ネットのいじめ】(高学年)/⑤赤ちゃん先生(2年生) 講師 NPO法人ママの働き方応援隊のみなさん。赤ちゃんの成長を通じて、命の大切さを学びます。/⑥地域安全マップ(3年生) 12の地区に分かれ、サポーターと一緒に防犯上危険と思う所を見つけて説明と改善策をまとめ、発表しました。



子どもを共に育てるとともに、 関わる大人たちも共に育つ「共育」を

南小も、地域の個人・団体や、ボランティア団体、法人など、多くのみなさんに学校を支えていただき、共に子どもたちを育てています。

コミュニティ・スクールは、導入校ごとに、地域の特色によりさまざまな形があります。南小の特色は、保護者、地域のみなさんでサポーター活動を行っていることです。サポーターは、4つの部からなり、学習支援・家庭教育・学校環境・安心安全があります。現在の登録者数は80人。保護者半分、地域半分。卒業生もいます。

サポーター活動のモットーは「できるときにできることを。だれが来てもいい。いつきてもいい」活動しやすい雰囲気づくりを心がけています。

今年度から、クラブ活動の種類を19種目に増やしました。講師としてサポーターを含めた地域のみなさんに指導していただき、地域とのつながりを深めています。

「子どもを共に育てるとともに、そこに関わる大人(地域、保護者、教職員)たちも共に育つ」「子どものために、地域のために、自分のできることを」という思いを込めた「共育(共に育つ)」が南小コミュニティ・スクールのキーワードです。



府中南小学校
竹下 比登美 校長

保護者から サポーターから

南小の特色である「サポーター活動」とは、どのようなものなのでしょうか。保護者、サポーターそれぞれの視点から聞きました。



河村 香代子さん
保護者
南小PTA副会長

石本 智香子さん
サポーター
コミュニティ・スクール事務局

高田 有美子さん
サポーター
コミュニティ・スクール事務局

田村 雅恵さん
サポーター
コミュニティ・スクール事務局

松岡 大地さん
保護者
南小PTA会長

サポーター活動で広がる輪

松岡 家に帰ったら、子どもが楽しそうに話してくれます。「今日、サポーター先生いたよー」とか。
石本 親でもない、先生でもない、いろいろな大人と関わることができ、今の子どもたちはいいな、と思います。

河村 子どもが学校にいらっしやらない人でも、サポーターとして入ってくださっています。最初は驚きましたが、とてもありがたいです。成長とともに、子どもの表情は常に変わってきます。保護者として、地域住民として、いつも子どもたちのことを見守っていきたいと思っています。

田村 サポーターが、子どもが小学校にいらなくても、見返りがなくても、活動が続けるのはなぜでしょうか。子どもの成長が自分の喜びにつながる、そんな気持ちなんだと思います。自分の力を発揮できる「自己有用感」も実感できるんだと思います。

河村 保護者、地域の人に、学校での子どもたちのことをもっと知ってほしいし、参加してほしいと思っています。

松岡 サポーターは、みんなが「子どもたちのために」という、同じ方向を見て取り組んでおられ

4つのサポーター活動



5 学校環境サポーター 校内の環境美化など実施。設備の改修の意見は、学校運営協議会で提案されました。

4 安心安全サポーター

子どもたちの登下校の見守りや社会見学の見守り、引率補助などを行っています。「子どもたちとのコミュニケーションが楽しくて、朝、通学路に立っています。卒業しても、中学校や高校へ通う姿を見るととても嬉しいです」と中村さん。



学習支援サポーター ①1、2年生の授業や、②高学年の家庭科の授業の手伝い、学習プリントの印刷など。

③「サポーターはとても重責だと思っていましたが、みんなで日程調整して、作業をしています」と塚本さん。





ます。親としてとても感謝しています。できる人ができる時に、というのがいいですね。PTA活動も、いろいろな事情で参加したくても参加が難しい人がいます。行ける人で行けない人とが連絡を取り合えたらいいなと思っています。お互いの顔が分かれば「今回は難しいだね、来れる人でやるから大丈夫!」と、サポートしやすくなると思います。

河村 顔が分かると、関わり方が変わってきますよね。

石本 子どもから「よっ!」と言われると、親近感がわきます。

松岡 子どもとの関わりは、こちらからの一言でスタートすると思います。先日、地域の巡視をしたとき、中・高校生ぐらいの子たちが、好ましくない場所に数人で集まっていた。注意から入ってしまいがちですが、「暑いねえ。うちわいる?」と声をかけると、「い

いんすか?」と反応があり、その後もスムーズにいききました。

田村 あいさつプラス一言。とても良いと思っています。子どもたちにも、「こんにちわ!」に「暑いのに頑張ってるね!」と、ちよつと言っ

石本 若い女性に声をかけられ、誰かな?と考えていたら、南小の卒業生でした。素敵な大人の女性になっていて、ビックリ!とても嬉しかったです。

学校とサポーターは、子どもと一緒に育てるパートナー

高田 サポーターとして学校に入るようになったのは平成26年から

です。学校で読み聞かせボランティアをしていた人たちに声をかけたことから広がっていききました。学校が、外部のサポーターを授業に入れる、と決断することはいかと思ひます。入る時間は先生と協議しながら決めて、入れるときに入りました。次第に子どもたちも私たちも顔を覚え、こんなときはこういう風に思っているんだろつな、というように、子どもたちそれぞれのことも分かってきました。

石本 先生が、気になるけれど

手が回らないところをサポートしています。1学級に児童が30人以上いるけれど、先生は1人。先生に聞いてほしいけど、先生は忙しいから...と、遠慮する子もいて「この服新しいんよ!」と見て!と、ちよつと聞いてほしいことなどを、サポーターに話してくれまふ。子どもたちにとって、話す相手が増えるほうが良いみたいです。

事務局としては、サポーターが息の長い活動が続けていける環境づくりを目指しています。例えば、今はサポーターとして活動できなくても、子どもの手が離れたなど、できるようになったら参加する、というような。

田村 毎年、先生も保護者も人が入れ替わっていきます。そのため、コミュニティ・スクールのこと、サポーターのことなど、情報発信をしていくことが大切だと感じています。考え方とかしっかり伝えていきたいと思っています。

学校とサポーターは、基本的に「子どものために」という共通の思ひがある、子どもと一緒に育てていく「パートナー」です。

町内すべての学校に「コミュニティ・スクール」の導入を目指しています

府中町教育委員会

府中町では「あいさつ、感謝、志」をキーワードとした社会総ぐるみの人材育成を進め、町内すべての学校にコミュニティ・スクールを導入するよう準備しています。多くの地域のみなさんがパートナーとなって学校運営にかかわることにより、学校も地域も子どもも元気になる「地域とともにある学校」を目指しています。

みなさんのご理解とご協力をお願いします。



6 家庭教育サポーター 子育て談話室を月1回開催。ヨガでリラックスしたあと、子育ての話題を中心に参加者同士で話し、子育ての先輩がアドバイスしています。ひとりで抱えていたことを話して「大丈夫よ、そんなときこうしたよ」と聞くと、気持ちが軽くなります。